

現代の吉田松陰

植草一秀さん、あなたを一瞬とはいえ、疑ったことをお詫びします。

真実を知らず、マスメディアの情報に鵜呑みにし、調べず、あなたを疑ったことを、本当に申し訳なく思います。

あなたの著書「知られざる真実―勾留地にて」と副島さんとの共著「売国者たちの末路」を読み、今、この日本で実際に行われている、言葉に表されないほどの醜い事実

に触れ、驚きを超越した怒りに、心が震えています。

なぜ、この美しい日本に住む人の中に、このような、浅ましい人間が出てきたのか。悪を構成するひとりひとりは、おそらく罪悪感はないのでしょうか。しかし、何ゆえに正義をつぶすのか。自分が無意識に天にそむく行動をしていることに気付かず、毎日を平安に生きている。

そんな中、たった一人で闘っておられる。

胸が張り裂けそうです。あなたは、現代の吉田松陰に例えられると思います。

今度の選挙、そして結果がどうであれ、このままにしているいい道理がありません。植草さんが命がけて闘っておられる姿に心から感激しています。

諦めなければ、真実と正義は必ず勝ちます。

世間に流されず、冷静さをもって、自分たちの心の底の正しい心に従って、闘

おうではありませんか。植草さんを殉教者にしてはいけません。

今、この夏、日本国の歴史の正念場です。誰かの力に頼るのではなく、自分たち一人一人が、歴史を作りましょう。

そして、地球上のありとあらゆる人に貢献できる日本を作ろうではありませんか。

女衞

企業は好況時にも社員を増やさず、派遣会社からの派遣労働者を増やすことで対応し、景気後退時には雇い止めにして簡単に切り捨てが可能になりました。

企業にとって、こんなに簡単な雇用調整ができる便利なやり方はありません。

一方労働者にとっては、仕事がいっ打ち切られるか？わからない不安定な立場では、結婚して子供を育てたり家を建てたりというような長期の人生設計はできず、昇給も見

込めないため購買力も頭打ち、年金や健康保険も保険料未納率は高く、制度から洩れてしまふ結果に…。

小泉純一郎・竹中平蔵の自公政権が導入した【人身売買】の悪法（現在の人材派遣法）は、2009年以前に戻すべきです。

派遣会社が【手配師】【人買い】【女衞】（ぜげん）と言われる所以（ゆえん）です！



8月13日~16日 事務所は夏期休暇です

“これは、イギリスのことわざです。”

森は売国政治で日本を貶（おとし）め、保守を撲滅に追い込んだ背後霊だ。

「保守」本来の義と志を掲げ、それを貫くという本来の保守の考えから逸脱し、談合で利権を配分し、寝技と嘘と誤魔化して、権力を金に換えることだけに汲々とするそのシステムを見事に作り上げたのだ。彼が政治家として歩んできた道のりを見れば、それが本人

我が党であれば ブタでも投票する

込んだらしい。雄弁弁会、ラグビー部はすぐ退部、日刊工業新聞社の「横入り」…。

how are youを who are you とクリントン大統領に話しかける脳みそ、「馬鹿みたい

の血肉として染みついていたものであることがよくわかる。そもそも早稲田大学に「スポーツ推薦」で入っている。父、町長の知り合いのコネで滑り

な人物」が首相になったことはあつたが、「真正正銘の馬鹿」が総理の座に座つたのはこの男が初めてだろう。そして、何よりも日本国民に害をなしたのは「馬鹿」に対しての「免疫力」を生んでしまつたことだ。以前ならば職どころか議員バツジまで失つたような失態をおかす大臣がいても、メディアもマジメに追求せず、国民もへらへらと笑って済ませるようになってしまったことだ。

【日本を貶めた10人の売国政治家―勝谷誠彦】より